

内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

⑩ 「流石に、こんなことまでは起こらない！」と思っていたことが、いとも簡単に起きています?!

I : ということで、先号 (⑨) からの続きともなりますが、これまでは、「当たり前だ!」「流石に、こんなことまでは起こらない！」と思っていたことが、いとも簡単に起きています?! 本当に、「世界は、この国は、どうなってしまったのだ?」! そういうようにも言えるということですが、その象徴は、かの国の暴挙 (他国侵攻) であり、それに関わる多くの国の対応状況だということですよ?!

D : そういうことですが、しかし、ただそれだけであれば、これまでに、信じがたい (許しがたい?) ことは多々ありましたよね! 要は、最近では、それが、度が過ぎている?! 否、一線を越えている?! そういうことですよ?! しかも、一方では、ある事を当たり前だと思っていた (そのように思っていた?) 人達 (国) にとっては、もちろん、そのように思えるのでしょうか、実は、そうではなかった人達 (国) もいた?! それも、顕在化、先鋭化してきたとも?!

I : 考えてみると、そうした中で、多くの国、人種 (民族) が滅び去った! そして、どこかの国、どこかの地域で細々と (あるいは包摂されて) 生きてきた (しかも、ほとんどが、差別や弾圧を受けて?)?! そのように見えてくると、現在の国 (家) というものは、大なり小なり、そういう歴史を有している?! 否、そうした問題は、現在も、世界のあちこちで、内在化している? そういうことですよ?!

D : だから、そうしたことは、これからも (どこでも?) 起こり得る (特に、親〇〇派とか、反政府勢力とかという存在がある国においては?)?! その最前線? が、今のウクライナということかと思いますが、国際法的には、れっきとした「ウクライナ人国 (家)」であっても、実際には、そこに、親露派と呼ばれる (or そうでありたい?) 人やロシア人 (種) が厳然といる! それは、歴史ではなく、現在進行形でもあるわけですが、冷静に捉えれば、そこが、問題の本質なのではないかということですよ?!

I : 一応、これまでは、〇〇国と〇〇人が一致し、その限りにおいて、「国 (家)」が成立していた?! もちろん、そこには、マイノリティ、「少数民族」の問題もありますが、表面上は、そうした問題がほとんどなくなった (あるいは、なくそうとしてきた?) 国においても、そういう人達が、厳然と存在している?! そして、「問題をなくしたくない」、あるいは「ぶり返したい?」とも思っている?!

D : もちろん、そうなのですが、ここから言えることは、ある特定の人種 (民族) からなる「国 (家) のあり様」を前提とするのではなく (ますます不可能となる?)、多様な人達 (国民) が理解/協力し合って (人種/民族的なものだけでなく!)、新たな約束事 (その最大のものが「憲法」!) の下に、その国を成立させる必要があるということなのではないでしょうか (実際には、難しいことですが!)?! つまり、そこに、国 (家) としての「Diversity (多様性)」が必要となってくるということですよ?!

I : しかし、それは、混乱を招く? 否々、下手をすれば、国々あるいは国民間の、言わば「雑居ビルの存在」を加速化させることにもなる?! しかも、そういうことを口実? に、強いもの (国) が、それを我が物にしようとする?! 現に、そういうことが起きている (このことが、今回の戦争? 責任ということである! そして、少なくとももう一つ、危険な国がある!)! だからこそ、そこに、かの「近代の要素」、すなわち、「自由、平等、博愛」、そして、「民主主義」を、現実の「多様性」(の意義) を自覚した「国民」の力と責任の名において、次なる形へと転換させていかなければならない?!

D : そういうことです! そこにおける「多様な国民」(人種的なものではない!) の価値観や利害得失 (歴史を含む) を、いかに上手く調整していけばよいのかの、それこそ、高度で、賢明な政治、国 (家) 形成上のルールやしくみづくりが必要となるということですよ! それ故に、これまでのような、単純な二者択一 (に追い込む形) ではだめだということ! 既得権益とか、一方的な主義主張だけ (怨念や敵愾心? を含む) では、何も始まらない (変えられない?)! そういうことなのですよ?! (つづく)